

出版した。

右のほか『薬名彙集』・『明治三十七、八年戦役第三軍に於ける死傷其他の統計衛生機関の作業表及配置図』等の著述がある。

東京青山斎場における葬儀はきわめて盛大で、神奈川県鶴見にある曹洞宗大本山総持寺に葬られた。戒名は樹徳院泰嶽忠誠居士である。

(山口県秋市)

田代三喜の『三帰廻翁医書』

小兒諸病門について

広田 曄子

田代三喜(一四六五〜一五三七)は室町時代の医師で、一四八八年に渡明して月湖について金元医学を学び、一四九八年に帰朝した。帰朝後は古河を中心に民衆の医療に尽くしたといわれる。

三喜の著作集『三帰廻翁医書』の小兒諸病門は、日本における最初の小兒科の専門書と思われる。日本の小兒科領域の医学の歴史は『医心方』、『万安方』、『福田方』、『三帰廻翁医書』といった具合に辿れるが、前三者はいずれも全書の中の小兒部門である。

『三帰廻翁医書』は『福田方』より百数十年後に著された。『福田方』もカナまじり文で書かれていたが、本書も同様である。小兒諸病門には出典の記載がないのがそれまでの医書の小兒門と違うところである。しかしその内容は

それまでのどの書にも増して実地に即しており、簡潔にして重要なポイントを押えている。ここでは『諸病源候論』による病理観を一步越えており、中国医学の影響を強く受けていたそれまでの医書と違って、田代三喜の自らの治療経験が色濃く出ている。出典が記されていないことも独自の医学を創りあげていたことの証しかもしれない。

目次は項目が三七あり、次の如くである。

中風	第一	風寒	第二	散血	第三
急慢	第四	変蒸	第五	頭眉	第六
眼病	第七	耳病	第八	鼻病	第九
口内	第一〇	牙齒	第一一	咽喉	第一二
咳逆	第一三	汗病	第一四	豆瘡	第一五
草類	第一六	疳虫	第一七	痘瘡	第一八
脚気	第一九	瘧疾	第二〇	咳嗽	第二一
泄瀉	第二二	痢病	第二三	脹腹	第二四
淋病	第二五	霍乱	第二六	黄疸	第二七
諸虫	第二八	痔病	第二九	下血	第三〇
消渴	第三一	秘結	第三二	喘急	第三三

脇痛 第三四 疝気 第三五 嘔吐 第三六
腫物 第三七

右のように小児科領域で実際非常に重要で頻度の多い項目を挙げている。その各々の項目についてポピュラーな疾病をいくつか挙げ、臓府、気血などによる弁証を論じ、それぞれに治法を一つ二つ記し、薬物の効能の解釈を付している。

たとえば、耳病門では膿汁が流れるもの、いまでいう中耳炎と、耳鳴りを記載している。そして耳鳴りは血氣逆上か風熱のためか腎虚のためであるとして、それに合った薬物を組んだ処方を見せている。このやり方はいわゆる後世派の流れであり、日本における開祖といわれる。三喜の弟子に曲直瀬道三が出て金元医学の体系を確立したが、三喜が明に渡って現地で医学を学び、日本でそれを実践に応用して独自の医学を築いた功績は非常に大きい。

(東京都三鷹市)